

第8回「葛飾図書館友の会」総会(4月25日開催)

これからも活発なボランティア活動を進める 《「葛飾協働まちづくり表彰」の受賞を報告》

4月25日(土)午後、中央図書館で「葛飾図書館友の会」第8回総会が開催されました。朝野会長が「図書館にかかわるボランティア活動を続けたことに、葛飾区から「葛飾協働まちづくり表彰」を受賞した。これからも活発に活動をしていきましょう」と挨拶をしました。また橋本中央図書館長から「友の会は図書館にとって車の両輪のような存在で、活動に感謝している。2009年開館以来、利用者が666万人にのぼっている。来年3月にはこすげ地区図書館もオープンする予定で、今後も一緒に活動して欲しい」との祝辞をいただきました。

その後、議長を選出し各委員会から平成26年度の活動報告、会計及び監査報告、そして平成27年度の活動計画(案)及び予算案が提案され、すべての議案が承認されました。また休憩時間には朝野会長から、初の試みとしてパワーポイントによる「友の会」のこれまでの歴史と活動内容の紹介が行われました。



「ライブリーカフェ」に多数の方が“来店” 交流を深める

総会終了後、午後3時過ぎから恒例の「ライブリーカフェ」を5店舗開店。会員以外の方も20名以上参加され、どの店も大賑わい。予定時間をオーバー、楽しいひと時を過ごし、交流を深めました。

《旅行に行くなら新幹線?》 店長 朝野会長



出張ではなくて個人で旅に出るならどう交通機関がいいですか? という素朴な問いかけから議論がスタート。ちょうど北陸新幹線が東京⇄金沢を2時間半で繋いだ時期でもあり、お茶飲み話が盛り上がりました。高速移動の対極に内田百閒の「阿房列車」があります。「阿房列車」は1950年代に発行された紀行文で中央図書館にも蔵書があります。内田百閒の本の出だしは「なんにも用事がないけれど、汽車に乗って大阪へ行つて来ようと思ふ」から始まっています。彼はときおりたどり着いた駅からそのまま上りの列車に乗って東京に戻ってきてしまうのです。まさに乗り鉄の元祖ですね。

旅の楽しみは乗り鉄に限らず、見る食べる遊ぶという「るるぶ」派の方、ショッピングが目的の方、リラクゼーションが一番だという方もいて、人さまざまです。もちろん人それぞれの楽しみがあってよいので、そういう人生の楽しみを語り合った店舗でした。

《 漢字で遊ぼう！ 》 店長 高橋副会長

ふだん何げなく使っている漢字、ワープロの発達で「書く」動作が失われつつあります。図書館で「漢字」を検索すると 1,038 冊の書籍が出てきました。漢字は日本人の言葉の源です。「知る」だけでなく、書いて漢字で楽しもうというアイデアでカフェを開店しました。

①あなたは【漢字検定】何級？ ②挑戦！「ブラック漢字ナンクロ」 ③挑戦！「ホワイト漢字ナンクロ」という3つのテーマでお客さんを募ったのですが、『ナンクロとは何ぞや』という説明もなく始めたので、お客さんは戸惑い気味。「漢字検定」はみなさん3級～1級の範囲で見事合格！ ナンクロとは「ナンバークロスワード」の略で、白と黒の盤面をすべて文字(漢字)で埋めるお遊びです。今流行りの「ポケ防止」効果も期待される当カフェのレシピに、汗にまみれた笑い顔で閉店しました。

《 江戸 吉原「廓(くるわ)」の文化とは 》 店長 栗竹展示企画委員長

題材決定の日、その頃「廓」の中で男女の恋愛を主とした本を読んでいたもので、つい手をあげてしまいました。女が廓の話をするのは難しく、同じ広報委員の協力もあり、参考用の写真などを持参。参加者はいないと思っていたら、男性2名、女性4名、意外でした。つたない私の話より皆さんの話の方が面白く、かえって勉強になりました。廓は元吉原、新吉原と呼ばれ、400年余が過ぎた現在はソーランド街になってしまったそうです。昔の男女恋愛の悲しい性がひきつがれているのか、いないのか、今もはっきりとは分からないのです。ライブラリーカフェに珍しい店名でしたが、また参加したいとのひと言にうれしく思いました。

《 図書館について知ろう 》 店長 鶴岡副会長

毎日、図書館に来館される方、時々来館される方、若い方、高齢者の方、男性、女性。1日数千人の利用者があり、都内で1番進んでいる図書館？ 区では「葛飾区立図書館の基本的な考え方」【取組方針】が平成26年12月にでき、図書館はその考え方の中で、日々進化していると考えられます。この店に参加された方々の声は次の通りです。これからの図書館として高齢化社会に対応して、色々な行事や集まりに参加できるプログラムをお願いします。ますます高齢化社会ですので、すべて電子化ではなく、誰もが使いやすい図書館であって欲しい。

今でも、HPを閲覧できない方も多い。そういう方たちのために、目につきやすいポスターなど作って欲しい。本の返却ポストを増やして欲しい等等・・・図書館に対する色々な意見がありましたが、同席された橋本館長はひとつひとつ丁寧に答えてくださいました。



《 館内での書架整理体験 》 店長 中里委員

今回も昨年と同様、図書館職員の指導のもと、数名が旅行ガイドブックを中心にした書架の整理を体験しました。



利用が多いのか、分類番号通りの配架にかなり“乱れ”があり、その多さに初体験の参加者は一苦労した模様。特に最年少の参加者はマンガ本の並びの乱雑さにビックリしたとの感想もでるほど。またCDコーナーにも体験の手を伸ばしました。一番下のラックの整理は腰を屈めながらの悪戦苦闘。休憩をはさむほどでした。2時間近くの体験に少しはヤッタ感があったかも？

総会后、まもなく新しく会員になっていただいた参加者もいらっしゃいました。

こんな本みつけた！ こんな本よんだ！

＝『銀座 覆刻版』 松崎天民 著（新泉社）＝

高橋久郎

近ごろの銀座の変わりようは、ほんとうにびっくりします。

立ち並ぶファッションビルと、外国人の多さに、むかし風の「銀ブラ」を楽しもうと思っても立ち往生するばかりです。またそのような人種もひとにぎりになってしまいました。

銀座は明治20年(1887)に西洋風煉瓦街として誕生し、新聞社を中心に商業地として繁栄しましたが、関東大震災で壊滅。それを機会に東京全域の大改造が行われ、銀座も1～8丁目と広域商店街に。また、網の目のように敷設された路面電車《市電》のターミナルとして日本一の繁華街となりました。しかしその繁栄も戦時配給制度によって中断するなか、第二次大戦による大空襲でそれこそ瓦礫の山になりました。ところが不死鳥・大銀座は戦後の復興でたちまち昔日の姿を取り戻しました。松屋、三越、和光が固める銀座4丁目交差点は高度成長期の中心でしたが、むかしは「尾張町交差点」と呼ばれ、南北銀座8丁の中心でした。

ところでぼくが30年前に購入した、《こんな本》は、昭和2年(1927)に発刊された松崎天民(てんみん)という人の書いた『銀座』という本の、

昭和61年(1986)に発行された復刻本です。活字本文298ページ、巻末付録<銀座ぶらガイド>という広告特集が図版と説明文を含めて80ページついているところが特長です。松崎天民は明治11年(1876)岡山の生まれで、苦学ののち、国民新聞ほかいくつかの新聞社の記者を25年つとめ、のちにルポルタージュ記者として一世を風靡したと言われる人でした。その頃、日本橋のにぎわいは浅草・上野に移り地盤沈下。銀座は和装に洋装品(ファッション)、高級な西欧の帽子、カバンなどの舶来品店や文房具店などが台頭、街路に連なるアセチレン灯《夜店》により、巨大繁華街が実現しました。天民はこの<銀座>を活写するためにさらに花を添えるべく、いわゆる《カフェ》文化、モボ・モガの生態を克明に描きました。

昭和の銀座は大正時代の米騒動、反乱、戦争、暴落、貧困を背景にしながらも大阪から来た《カフェ》などによって、江戸時代以来の新橋・花街から、洋風へと転換していく風俗の中心でした。天民は《銀ブラ懇話会》という集まりを主宰し、20歳代から30歳代の映画俳優、若旦那、大学生、カメラマン、新聞雑誌記者、商人、会社員を集めて毎月28日に漫談会を行ったと言います。そこで得た銀ブラ・銀座情報がこの本の中心です。

話題は「銀座とは何か」ということで、表銀座・裏銀座をめぐる風俗百般、ファッションなどですが、落ちるところは男女のうわさ話になったようです。

その頃の銀座かいわいの料理屋は101軒と言われ、筆頭は西洋料理店の49軒、ビヤホール酒場すなわちカフェが5軒、その他大小のバーがあったと思われ。そして《女給時代》といわれるプランタン、ライオン、タイガー、キリンなどには、小山内薫、正宗白鳥、市川猿之助、永井荷風、岡田三郎助などの有名人が日夜たむろし、そこに数多くの《専門ウエートレス》がついて、歓楽と愛の交歓にふけたようです。銀座にはタイガーもいたのですね。しかし三度の災禍にあった銀座はパリやロンドンとならぶ世界有数の都市でありながら歴史的建造物は少なく、この街をめぐるロマンスこそ、後代に語り継ぐべきものと、ぼくは考えます。

(たかはし・ひさお 友の会副会長)



銀座する昭和15年頃の
筆者と父

葛飾 友の会 検索

クリックで友の会HPへ

アドレス：katsutomo.jimdo.co

＝ 葛飾図書館友の会の紹介やイベント情報いろいろ ＝

日本で唯一の広告図書館を 楽しい解説付で見学

梅雨中には珍しく、さわやかに晴れた 2015 年 6 月 20 日（土）に汐留にある日本で唯一の広告図書館を見学してきました。

このイベントは当会の会員限定のツアーであり 8 人が参加しました。広告図書館はさすがに広告専門の図書館だけあって、広告物のデジタルアーカイブを制作しています。

20 万点以上の資料の中から吉永小百合さんの初期のテレビCMを検索して楽しみました。グロンサンのCMでした。さらに引き続き併設された広告博物館を学芸員さんの解説付きで見学しました。



ちょうど6月に館内のリフォームと企画展示物の入れ替えを済ませたばかりでしたので、来訪経験がある人にも楽しめました。午後2時から3時半まで見学を堪能して自由散会としました。学芸員の坂口様には越後屋呉服店に代表される江戸期の消費文化を川柳を交えて楽しく解説いただき、貴重な半日となりました。感謝します。
(朝野友の会会長)

「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

原則として第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員 1,000 円、賛助会員は 1 口 2,000 円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、27年度年会費とご記入下さい。また 1 口 500 円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では 130 円、ATM からでは 80 円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。入会届はHP (<http://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

ゆうちょ銀行	口座番号	00100-7-392065
	口座名称	葛飾図書館友の会

●問い合わせ先 中央図書館友の会担当者（打越さん、吉村さん、白井さん、川井さん）Tel 03-3607-9201

色紙づくり

図書館の思い出。昭和30年代、立石にしかなかった区立図書館へ「思い切った」行って見たのは中学生の頃。建物の古さ暗さにも少し引いたのだけれど、何より驚いたのは閉架式だった事。

学校図書館しか知らない子供？では戸惑うばかりで、使い方を訊きもせず逃げ帰ってしまった▼本の虫になったのは小学生になって毎月二冊ずつ本を買ってもらえたのがきっかけかと思う。教育ママの気があった我が母親、読書習慣が「いた」と喜んだかもしれないが、焼き芋を包んだ新聞紙でも読まずにはいられない活字中毒に育つ将来など予測していただろうか▼学校では読みたい本は読み尽くし、小遣いは限られている身にピカピカの新図書館が出来たニュース（昭和48年頃？）。早速、わくわく、新宿（にいじゅく）まで。出かけてどうしたか▼明るく綺麗な閲覧室、延々並ぶ書架の列。興味を惹かれる本がどっさりありすぎ。圧倒されるあまり、その日は一冊も借りずに帰ってしまったおバカな私。貧乏性な。後に住んだ世田谷区の図書館でもまたやらかしたのだから呆れる▼翻り当時は格段の蔵書、素晴らしいサービースに恵まれた今、本がそこに「ある」というだけで安心してしまふ私。好奇心をなくしたら老けこむよね。読書欲を取り戻そう。PCはほどほどにして。
(林広報委員)